倫　　理

（解答番号 1 ～ 37 ）

第１問　次の文章を読み，下の問い（問１～３）に答えよ。（配点　８）

この数年，少年による残酷な殺傷事件，性犯罪，万引きなどがマスコミ等で多く取り上げられるようになった。

少年犯罪の発生には，様々な要因が複合的に影響していると考えられるが，中でも ⓐ心理的要因・社会的要因の果たす役割は大きい。特に最近，少年をとりまく ⓑ社会環境の変化が著しく，それが犯罪を誘発する大きな要因であると一般に受け止められている。例えば，インターネット，携帯電話などの出現は，少年の行動に大きな変化をもたらしたと考えられている。それらは，少年の欲望を刺激したり，犯罪への新たなきっかけを提供したりすることもあるからである。

このような急激な社会環境の変化の中で，青少年が望ましい人格的な成長と社会的成熟を達成するのは，相当困難なことである。新しい知識や技術に振り回されることなく，それらを適切に使いこなす知恵をもつことが必要である。そのためには，知識の使い方やその知識が人生にとってどのような意味をもつか，そもそも生きるとはどういうことかなどについて指針を与えてくれる ⓒ先人の知恵に触れることが大切である。

問 1　下線部ⓐに関して，青年期には，次の(1)～(4)に示すような青年期に特有な発達課題がある。この課題の達成に失敗した場合には，逸脱行動が出現することがある。**ア**～**ウ**に示す逸脱行動は，それぞれ，主にどの課題の達成の失敗と考えられるか。その組合せとして最も適当なものを，下の①～⑤のうちから一つ選べ。 1

(1)　同じ年ごろの男女間のコミュニケーション能力を高めること。

(2)　職業を選択して経済的に自立するための準備をすること。

(3)　自分の身体の変化に気づき，理解し適応すること。

(4)　社会の一員として適切に行動するために，価値や倫理の体系を学ぶこと。

ア　学ぶ意欲を喪失して学校にも行かず，漫然と日々を送っている。

イ　好きな異性に無言電話をかけたり，あとをつけたりする。

ウ　繁華街で遊んでいるうちに，万引きすることを覚えてしまった。

① **ア**—(2)　**イ**—(3)　**ウ**—(4)

② **ア**—(4)　**イ**—(1)　**ウ**—(3)

③ **ア**—(2)　**イ**—(1)　**ウ**—(4)

④ **ア**—(4)　**イ**—(3)　**ウ**—(1)

⑤ **ア**—(2)　**イ**—(1)　**ウ**—(3)

問 2　下線部ⓑに関して，どのような社会環境が少年非行に影響を及ぼしているかという点について，少年(13 歳以上 20 歳未満)と成人(20 歳以上)に意見を求めたところ，次の**表**に示す結果が得られた。この**表**から読み取れる内容として最も適当なものを，次ページの①～④のうちから一つ選べ。 **2**

表　少年非行に及ぼす社会環境の影響

(複数選択，数字は%)

項　　目	少　年	成　人
少年でも刃物等を手に入れられる環境	41.6	27.6
テレホンクラブなどの氾濫	32.6	48.5
酒，タバコなどの自動販売機が多い	29.2	31.7
暴力や性を扱うビデオ・出版物の氾濫	23.2	42.9
携帯電話の普及	22.4	44.2
少年が利用できる施設が少ない	15.8	20.0
コンビニなどが深夜まで営業している	15.3	38.9
スナック，ディスコなどが多い	13.7	27.2
放置自転車が氾濫している	12.2	12.8
インターネットの普及	10.3	18.1

内閣府大臣官房政府広報室編『月刊　世論調査』(平成 14 年 7 月)より作成。

① 少年も成人も，「酒，タバコなどの自動販売機が多い」などの古くからある環境と，「携帯電話の普及」や「コンビニなどが深夜まで営業している」などの新しい社会環境との両方が同じ程度に問題であると考えている。

② 少年も成人も，「テレホンクラブなどの氾濫（はんらん）」や，「暴力や性を扱うビデオ・出版物の氾濫」よりも，「インターネットの普及」による環境変化の方が問題であると考えている。

③ 「酒，タバコなどの自動販売機が多い」などの古くからある環境よりも，「インターネットの普及」や「携帯電話の普及」などの情報化による環境変化の方が問題であると考えている人は，成人よりも少年の方が多い。

④ 「少年でも刃物等を手に入れられる環境」よりも，「携帯電話の普及」や「コンビニなどが深夜まで営業している」などの新しい社会環境の方が問題であると考えている人は，少年よりも成人の方が多い。

問 3 下線部ⓒに関して，青少年に人生の指針を与えてくれる先人の書物についての記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 [3]

① エリクソンは，青年期の課題として自我同一性の確立を提唱し，『幼児期と社会』では，その基礎となる乳幼児期の親子関係の重要性を指摘した。

② ルソーは，『エミール』で，「我々は二度生まれる」と表現し，青年を大人と子どもの中間の存在と位置づけ，青年期の若者を境界人と呼んだ。

③ 神谷美恵子は，『生きがいについて』で，自分の存在が誰（だれ）かのため，何かのために必要だと自覚することで張り合いをもって生活できると述べた。

④ ガンディーは，非暴力・不服従の抵抗運動によって，インドを独立に導いたが，その実践の記録と生命尊重の思想は，『自叙伝』に示されている。

第２問　次の文章を読み，下の問い(**問１～８**)に答えよ。(配点　24)

近年，日本の社会は高齢社会と言われるようになり，人々の関心も，漠然とした不安を伴いながら，老いに向けられようとしている。ここでは，老いはどのように考えられてきたか，先人の思索のあとをたどってみることにしよう。

古代インドにおいては，人は全体として苦に満ちたⓐ輪廻の中にいると考えられていた。その中にあってⓑゴータマ＝ブッダは，老いを病気や死とともに何人も免れえない苦として捉(とら)えている。確かに老いは，若い時にもっていた様々な能力や容姿の衰える時期であることは否めない。

しかし老いの意味はそれだけであろうか。同じく古代インドの『マヌ法典』は，「知識ある者は，若くとも老人である」と述べ，知識の所有こそ老いの特徴とみなし，老いを賞賛の言葉として用いている。ⓒ旧約聖書時代の文書にある「健全な判断は年輪を重ねた者に，確かな勧告は長老にふさわしい」という叙述も，老いに経験的知識の蓄積を見，老いた者を尊敬の対象としていると理解できよう。

ⓓプラトンは『国家』において，「若さを失った老いは悲惨か」という問いに対し，老いには愛欲などの情念から解放された平和と自由があると答え，「悲惨をもたらすのは老年ではなくその人間の性格なのだ」と述べている。古代ローマの雄弁家キケロは，「老いは重荷ではないか」という疑問に対し，老いを擁護する詳細な議論を展開している。ⓔ彼は一生を少年期，青年期，中年期，老年期の４期に分けて考察し，老年期を固有の意味をもつものとして積極的に捉えている。

また古代中国においても，［　4　］は，自らの過去を振り返って，十代で学問に志したことから始め，「六十にして耳順(したが)う，七十にして心の欲するところに従いて矩(のり)をこえず」と，真の自由を得た境地として老いを述べている。不老長寿を理想とする道教では，活力ある若さの維持が求められ，老いは否定的に捉えられているかのようである。しかしⓕ道家の代表的思想家老子は，威厳ある白ひげの老人として描かれている。このように描かれる背景には，この姿が，世俗に囚(とら)われず，［　5　］を説く賢者にふさわしいという考え方があることが見てとれよう。

以上見たように老いは，ただ身体的能力の衰える時期であるのみならず，長い間の経験を経て到達された何らかの境地とも考えられている。多くの人が老いを経験

する今日，人生を長いサイクルの中で見渡し，老いの価値と可能性を模索することが必要であろう。

問 1　文章中の [4] ・ [5] に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[4]　① 孟　子　② 孔　子　③ 荀　子　④ 墨　子

[5]
① 天人相関　② 涅槃寂静
③ 無為自然　④ 心斎坐忘

問 2　下線部ⓐに関連して，古代インドのウパニシャッドで追求された，輪廻を脱した境地の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。
[6]

① アートマンの中に変化しない要素はないことを認識し，執着をすてて永遠性を獲得した境地。

② アートマンと宇宙的原理が同一であることを直観し，それによって永遠性を獲得した境地。

③ アートマンが存在のよりどころとしている身体を不滅なものにすることによって，永遠性を獲得した境地。

④ アートマンを創造した神の行為を認識し，神の慈愛による救済を通して，永遠性を獲得した境地。

問 3　下線部ⓑに関連して，ゴータマ＝ブッダとほぼ同時代に生きたジャイナ教の開祖ヴァルダマーナ(マハーヴィーラ)の教説として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 7

① 人間の思惟(しい)の形式は，世界の一部しか理解できない限定的なものであり，真理に到達するためには人間の思惟を否定しなければならない，と説いた。

② 運命によって人間の幸不幸は決まっており，人智の及ぶところではないので，いかに努力しても幸福になれるとは限らない，と説いた。

③ 人間の行為の善悪の究極的な基準は存在せず，悪行を行う人を非難する根拠もなく，善行も賞賛の対象にはならない，と説いた。

④ 解脱を目指して徹底した苦行主義に立つとともに，生き物に対する慈悲の行為として不殺生を実践しなければならない，と説いた。

問 4　下線部ⓒに関連して，旧約聖書に登場する宗教的指導者モーセについて述べたものとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 8

① 王の宮殿で育てられたが，荒野で啓示を受け，奴隷となっていた同胞を約束の地へと向かわせ，神から授けられた掟(おきて)を人々に示した。

② 異民族による支配は，多神教の影響による宗教的な堕落や貧者を虐げる社会的不正に対する神の罰だとして，神の裁きと救済を説いた。

③ 山の洞窟(どうくつ)で神から啓示を受け，預言者として，礼拝や喜捨などの宗教的義務を果たし敬虔(けいけん)な信仰生活を送るべきことを説いた。

④ 王子として生まれ育ったが，死や病気に直面する人間の苦しみについて思い悩み，王家を出て真理に達し，人々にそれを示した。

問 5　下線部ⓓのプラトンは，洞窟の比喩(ひゆ)を用いて彼の思想を説いた。その比喩の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **9**

① 多くの人々は，魂が肉体から解放されるまで，快楽や欲望の束縛から脱することができない。それはちょうど，囚人が洞窟の中に死ぬまで縛りつけられて逃げられないのと似ている。

② 多くの人々は，個人的な生活にしか目を向けず，社会的理想を追求しようとはしない。それはちょうど，洞窟の中で生活している人々が，そこでの生活に安住し，洞窟の外に出て理想国家を建設しようとしないのと似ている。

③ 多くの人々は，普遍的な真理など存在せず，相対的にしか真理は語れないとする。それはちょうど，人々がそれぞれの洞窟の中でそれぞれの基準で真偽を判断し，その正否に他人は口を出せないのと似ている。

④ 多くの人々は，感覚されたものを実在だと思い込んでいる。それはちょうど，洞窟の壁に向かって繋(つな)がれている囚人が，壁に映った背後の事物の影を実物だと思い込んでしまうのと似ている。

問 6　下線部ⓔに関連して，キケロは，その著作『老年について』において，人生に関して次のような考え方を伝えている。この考え方に合致する記述として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 10

少なくともわしの見るところでは間違いなく，全(すべ)ての仕事に満ち足りることが人生に満ち足りることになる。少年期には少年期の仕事がちゃんとあるが，だからといって青年がそれを愛惜するだろうか。青年期の入口にある仕事を中年と呼ばれるすでに安定した世代が追い求めるであろうか。中年期にももちろん仕事があるが，老年になってそれが欲しがられたりはしない。そして老年にはいわば最後の仕事がある。それ故，前の各年代の仕事が消えていくように，老年の仕事も消えてなくなるのだ。そしてそうなった時には，人生に満ち足りて死の時が熟するのである。

① 人の一生は春夏秋冬の四季に喩(たと)えることができる。春には春の，冬には冬の特質があり，他の季節にはないものである。それぞれの季節の特質はその季節において実現されるように，少年期を始めそれぞれの時期になすべきことをなしていくのが，善き生である。

② 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春と秋は過ごしやすい好ましい季節であり，夏と冬は過ごすのに困難を伴う季節である。そのように人の一生も浮き沈みがあるが，それぞれの期間，どんな境遇にあっても全力を尽くすことが，善き生である。

③ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。一年が春夏秋冬で終わるように，人の一生も春夏秋冬で終わる。若くして死ぬ人にも，長命の人にもそれぞれの春夏秋冬があるのである。いつ死を迎えるにせよ，与えられた期間精一杯生きることが，善き生である。

④ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春の後に夏が来るように季節の順序は定まっていて，逆になることはない。そのように人の一生も一方向に向かって進行し，後戻りすることはないのだから，どの時期にあってもつねに将来に向かって努力することが，善き生である。

問 7　下線部ⓕに関連して，道家のもう一人の代表的思想家荘子の思想を述べたものとして**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 11

① この世界は，道がおのずから現れたものであり，そこには対立や差別はない。この認識に立ち，一切の欲望や分別から自由になった人が真人である。

② この世界は，道がおのずから現れたものであるので，己の心を虚にして，心身とも天地自然と一体になる境地が理想である。

③ この世界は，道がおのずから現れたものであるのに，人間がそれを有用だとか無用だとか判断するのは，自己の価値観に囚われているためである。

④ この世界は，道がおのずから現れたものであり，人間社会の秩序も道にかなっている。この認識に立った，社会規範にかなう行為が重要である。

問 8　本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 12

① 老いに人格の完成といった意味合いがあるにせよ，より重要なのは若さの保持であり，老齢に至っても，つねに若い心を保ち，つねに若々しく振舞うことこそが求められなければならない。

② 精神的能力は身体的能力の衰えに従って衰えるのだから，老いはそのまま英知を保証するものではない。若い時の過ごし方が老いの生き方に繋がるのであり，老いに至るまでの生き方こそが重要である。

③ 老いには若い時の能力が衰えるという面がある一方，経験的知識を深め人格を完成させるといった意義もある。このことを認識して，老いの価値を見出すよう努力することが重要である。

④ 老いは，人生の与える可能性が実現された後に訪れるものである。社会の一線から退き，社会に関与しないところに精神の自由があり，この自由に生きることのうちに老いの望ましい生き方がある。

第3問　次の文章を読み，下の問い(**問1～8**)に答えよ。(配点　24)

過去の思想家たちの多くは，人間の力を超えた存在との関(かか)わりにおいてよりよく生きる道を求めた。はたしてそれは，どのような思索であっただろうか。

中世の仏教者ⓐ法然は，「知恵第一」と称されるほど学問や修行に励んでいたが，目指す悟りに到達できず苦しんだ。その末に［ 13 ］が説く浄土の教えを通じて，すべての衆生を救うという阿弥陀仏と出会ったのである。法然において阿弥陀仏への信仰は，自らの力では悟りに到達できない人間の根源的な無力さと向き合うことなしには得られないものであった。また近世の国学者賀茂真淵は，人間を「万物の霊」と位置づける儒学の教えに対し，むしろ人間は「万物の悪しきもの」なのではないかという疑問を抱き，『［ 14 ］』を著した。真淵によれば，ⓑ儒学の説く「道」は世の中を治めるために作られたものであるが，本来広大である「天地の心」を人間の狭い知によって小さく作りなしたものであるため，それに従っているとかえって世の中を乱すような悪事が増えてしまうのである。真淵にとって，知を極めることよりも，ⓒ広大な「天地の心」にのっとって生きることが人間としての本来的な生き方であった。法然や真淵は，人間のもつ力のみをよりどころにしていては真実の生き方に到達しえず，かえってそこから遠ざかってしまうことを思い知り，人間の力を超えた存在との関わりについて思索したのだと言えよう。

やがて近代に入ると，人間の力を超えた存在との関わりにおいてよき生を求めるような考え方は，合理性を重んじるⓓ啓蒙思想家たちにより批判された。例えば福沢諭吉は，自然の法則が解明されるにつれ，病気や災害が克服され，人間が人間を超えた存在に依存する必要がなくなり，数千万年後には人々が道徳的に完成して争いのない「文明の太平」が訪れるだろう，と述べている。しかしその一方で，ⓔ明治の後半には己の生きる意味を得られず煩悶(はんもん)する人々が現れ始めた。そうした中で，「人生の問題」について考えたという西田幾多郎の『善の研究』が広く支持されたのである。西田によれば，真の実在はⓕ「純粋経験」の事実であり，その根底に「神」と呼ばれる宇宙の統一力が働いている。西田は，己が有限であることを知ることで絶対無限の力との合一を求める心が生じるとし，さらにそれは人間が真摯(しんし)に生きようとするとき欠くことのできない要求である，と述べている。

以上のように，人間の力を超えた存在は「仏」，「天地」，「神」と様々な姿で捉(とら)えられ，その捉え方に応じて人間としてのよりよき生もまた，様々に論じられてきた。しかし，そうした思索はいずれも，それぞれの思想家が人間の力の限界と真摯に向き合うところから生まれてきたものであることが理解できよう。

問 1　文章中の 13 ・ 14 に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

13　① 契　沖　② 鑑　真　③ 善　導　④ 蓮　如

14　① 自然真営道　② 国意考　③ 立正安国論　④ 都鄙問答

問 2　下線部ⓐに関して，法然の言葉として伝えられる次の文章を読み，その趣旨に合致する記述として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 15

弥陀如来の本願の名号は，木こり，草刈り，菜摘み，水汲むたぐひのごときものの，内外ともにかけて*一文不通なるが，称ふれば必ず生ると信じて，真実に願ひて，常に念仏申すを最上の機**とす。もし智恵をもちて生死を離るべくは，源空***いかでかかの聖道門を捨てて，この浄土門におもむくべきや。

*内外ともにかけて：仏教の典籍もそれ以外の典籍もともに。

**機：仏の教えに応ずる能力。ここでは「救いの対象となる人」という意味。

***源空：法然の別名。

（『法然上人絵伝』）

① 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは，文字も読めないような民衆であると述べ，経典を読むことなど一切必要としない念仏の功徳を強調している。

② 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは，労働に励む民衆であると述べ，貴族が特権的に支配する社会を念仏の功徳により改革しようとしている。

③ 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは，智恵も徳もない民衆であると述べ，一切の学問や修行を捨てて民衆と同化すべきだと訴えている。

④ 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは，日々の生活の中で悪行を犯さざるをえない民衆であると述べ，自らも悪行を実践していると告白している。

問 3　下線部ⓑに関して，「道」は聖人の「作為」によるという考えは，儒学の中でも古文辞学派特有のものである。古文辞学派に属する儒学者として適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 16

① 荷田春満　② 前野良沢　③ 吉田松陰　④ 太宰春台

問 4　下線部ⓒに関して，賀茂真淵の考える「天地の心」にのっとった生き方として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 17

① 天はそもそも人間にとって測り知ることのできないものだから，無理に学問に努めるのでなく，天から受けた才を活かせるような職分を得て，互いに親しみ愛し合い，助け合って生きる。

② 武士や商人は，天の恵みを受けて農民の耕作したものを不当に搾取しているから，そうした身分階級を打ち破って，すべての人が衣食住を自給する「自然世」に生きる。

③ 生きとし生けるものすべてが歌を歌うように古（いにしえ）の人々も心のありのままに歌を歌っていたのだから，古の歌を通じて当時の人々の心と同化し，心のありのままに生きる。

④ 人間には士農工商の身分があるが，それぞれ「天の一物」であることに変わりはないのだから，もって生まれた己の本来の心を悟り，「天地と渾然（こんぜん）たる一物」となって生きる。

問 5　下線部ⓓの啓蒙思想家たちが結成したグループに明六社がある。次のア・イは明六社のメンバーに関する記述であるが，それぞれ誰（だれ）のことか。その組合せとして正しいものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 18

ア　夫婦の相互的な権利と義務に基づく婚姻形態を提唱し，自らも実践した。

イ　「哲学」，「理性」等の訳語を案出し，西洋哲学移入の基礎を作り上げた。

① ア　中村正直　　イ　加藤弘之　　② ア　中村正直　　イ　西　周

③ ア　森有礼　　イ　加藤弘之　　④ ア　森有礼　　イ　西　周

問 6　下線部ⓔに関して，夏目漱石は，日本の文明開化の特殊性のために多くの日本人が「神経衰弱」に陥らざるをえないと述べている。そのことについて論じた次の文章中の［ a ］・［ b ］に入れるのに最も適当な組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。［ 19 ］

それで現代日本の開化は前に述べた一般の開化とどこが違うかというのが問題です。もし一言にしてこの問題を決しようとするならば私はこう断じたい，西洋の開化（すなわち一般の開化）は［ a ］であって，日本の現代の開化は［ b ］である。

（夏目漱石「現代日本の開化」）

① a　自然的　b　人為的　　② a　内発的　b　外発的
③ a　先進的　b　後進的　　④ a　民主的　b　封建的

問 7　下線部ⓕの「純粋経験」の具体例として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［ 20 ］

① コンサートに出かけたAさんは，長年憧(あこが)れていた歌手の歌を今自分が生(なま)で聴いているのだと思い，改めて喜びをかみしめた。
② 数学の好きなBさんは，母親が用意してくれた夜食を食べることも忘れて，数学の問題を解くのに夢中になった。
③ 天才画家と呼ばれるCさんは，風景画の制作に没頭したが，それはあたかも風景の方が彼を突き動かして描かせているかのようだった。
④ 赤ん坊のDちゃんは，お腹(なか)が空(す)いたのか甘えたかったのか分からないが，母親の胸に抱かれながら一心不乱に母乳を飲んでいた。

問 8　本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 21

① 過去の思想家たちの中には，人間の無力さを人間の力を超えた存在との関わりにおいて克服しようと考える者がいた。彼らの思想は，近代の啓蒙思想家により非道徳的な依存的態度と批判されたが，自由な人間性の解放を目指したことは改めて評価されるべきである。

② 過去の思想家たちの中には，人間の力を超えた存在の働きによって人間の無力さを克服し，世の中をよくしようと考える者がいた。彼らの思想には，近代の啓蒙思想家たちが批判したように人生に消極的な面が見られるが，時代状況の違いを踏まえれば共感できる点も多い。

③ 過去の思想家たちの中には，人間の力を超えた存在との関わりを重んじ，知の働きなどの人間の力を否定する者がいた。彼らの思想は，近代の啓蒙思想家により非合理的であると批判されたが，人間の有限性に進んで目を向けたことなど，今なお学ぶべきものがある。

④ 過去の思想家たちの中には，病気や災害による苦しみ故に人間の力を超えた存在を求める者がいた。近代の啓蒙思想家たちは，そうした苦しみは人間の力で克服できると考えたが，いまだ克服されていない以上，過去の思想家たちからも学ぶべきものがあると言える。

第４問　次の文章を読み，下の問い(**問１～８**)に答えよ。(配点　24)

現代は，しばしばニヒリズムの時代だと言われるが，ニヒリズムとはそもそも何だろうか。ラテン語で「無」を意味する「ニヒル」に由来するこの言葉は，一般に，我々個々人の人生や社会生活にとって重要と思われていた価値を無化し，否定する立場，あるいはそうした価値の喪失状態を指しているものと考えられる。

現代ヨーロッパ社会にニヒリズムの到来を予言し，この言葉を広く世間に認知させたのはニーチェであったが，彼のニヒリズム概念は，プラトン主義およびキリスト教という西洋文化の思想的根幹に関(かか)わるものであった。それらは，ⓐ生成変化する現実世界を超えた所に永遠の理想的世界があると主張するが，ニーチェによれば，そうした理想的世界は，結局我々の心理的欲求が描き出す幻影にすぎない。そして，この事実が明白になれば，それまで人生に意味を与え，社会生活を支えてきた価値は失われ，究極のニヒリズムが訪れるというのである。

もっとも，ニヒリズムはなにも西洋社会に限ったことではない。洋の東西を問わず，いわゆる先進諸国の人々の多くが，人生の意味やⓑ社会的理想を見失っていると言われるのは何故だろうか。一つの考え方として，そうした状態に至る原因を科学万能主義の世界的拡大に見ることもできるだろう。今日に至るまでの自然科学は，ⓒ自然の原理を解明し，人類の福祉を向上させてきたが，「人は何のために生きるのか」，「人はいかに生きるべきか」といった人生の意味や目的に関わる問題を直接の研究対象とはしてこなかった。だから，我々がそれを探し求めようとするときには，哲学や宗教など科学以外のものにも耳を傾ける必要があった。ところが，目覚ましい発展によって科学への信頼が高じ，「科学がすべてを説明してくれるはずだ」というⓓ科学万能主義の想定が徐々に行き渡るに従って，哲学や宗教が社会のうちで占めていた地位は，随分と低下してしまったように見える。こうして，科学以外の領域における人生の意味の探究は次第にないがしろにされ，そのことが現代のニヒリズムをもたらしているとも考えられるのである。

それでは，我々はこのニヒリズムにどのように対応すべきだろうか。ニーチェ自身は，［　A　］超人の立場を説いた。しかし，我々はまず，ニーチェが言うように伝統的な形而上学や宗教の主張がすべて幻想にすぎないのかどうか，慎重に検討し

てみる必要がある。また，自然科学の価値を十分認めつつ，それが我々のⓔ実存に対してもつ意味についてもよく考えてみなければならない。現代においても，ⓕ科学的な知とは別の知の重要性を説いたり，科学技術文明を批判的に考察したりする思想家は少なくないのである。大切なのは，［ B ］ではないだろうか。

問 1　下線部ⓐに関して，現実世界の生成変化を捉(とら)えた論理を述べたものとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［ 22 ］

① ロックの自然法　　② デカルトの演繹法
③ カントの仮言命法　　④ ヘーゲルの弁証法

問 2　下線部ⓑの「社会的理想」を主題とする書物として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［ 23 ］

① 『民約訳解』　　② 『省察』
③ 『共産党宣言』　　④ 『日本改造法案大綱』

問 3　下線部ⓒに関連する思想家としてフランシス＝ベーコンがいるが，彼の立場をあらわした「知は力なり」という言葉の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 24

① 自然を人間の生命と繋(つな)がる生きたものと見る知が，人類に自然を支配する力を与える。

② 種族のイドラなど，四種のイドラに基づく知が，人類に自然を支配する力を与える。

③ 自然に服従することによって初めて発見される知が，人類に自然を支配する力を与える。

④ 確実な真理から推論によって必然的に導かれる知が，人類に自然を支配する力を与える。

問 4　下線部ⓓの成立に影響を与えたものとしてコントの実証主義があるが，その主張として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 25

① 本当の知識は，合理的思考のみによって得られるものに限られるので，感覚に由来する知識は退けねばならない。

② 本当の知識は，観察された事実を基礎とするものに限られるので，経験を超えたものに関する知識は退けねばならない。

③ 本当の知識は，純粋に事柄を見る態度に基づくものに限られるが，実用のためのものでも知識として認められる。

④ 本当の知識は，実生活にとって有用なものに限られるが，宗教的なものも，有用であれば本当の知識として認められる。

問 5　文章中の [A] に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[26]

① 意味や目的のない世界をあえて引き受け力強く生きる
② 意味や目的のない世界を離れて芸術的創造に癒(いや)しを求める
③ 意味や目的のない世界を破壊して理想的社会を建設する
④ 意味や目的のない世界を傍観してつねに超然と生きる

問 6　下線部ⓔの「実存」を重視した思想家にキルケゴールとサルトルがいる。二人の思想の記述として最も適当なものを，次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。キルケゴールについては [27] に，サルトルについては [28] に答えよ。

① 日常的な道具は使用目的があらかじめ定められており，本質が現実の存在に先立っているが，現実の存在が本質に先立つ人間は，自らつくるところ以外の何ものでもないと考えた。
② 宇宙はそれ以上分割できない究極的要素から構成されているが，この要素は非物体的なもので，それら無数の要素が神の摂理のもとであらかじめ調和していると主張した。
③ 生命は神に通じる神秘的なものであるから，人間を含むすべての生命に対して愛と畏敬(いけい)の念をもつべきであり，そのことによって倫理の根本原理が与えられると考えた。
④ 人が罪を赦(ゆる)され，神によって正しい者と認められるには，外面的善行は不要であり，聖書に書かれた神の言葉を導きとする，内面的な信仰のみが必要だと主張した。
⑤ 誰(だれ)にとっても成り立つような普遍的で客観的な真理ではなく，自分にとっての真理，すなわち自らがそれのために生き，また死にたいと願うような主体的真理を追求した。

問 7　下線部ⓕに関連して，西洋現代の思想家ハイデッガーの見解として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 29

① 厳密な推論を機械的に遂行する「幾何学的精神」だけではなく，人生にとっては，より柔軟で細やかな「繊細の精神」もまた重要である。

② 人間は技術によって，自然を利用する仕組みに取り込まれてしまっているが，根源としての存在の呼びかけに従わねばならない。

③ 言語やその他の記号による認識は，生の純粋な持続を空間化してしまうので，実在はむしろ直観によって捉えられねばならない。

④ 自然界には自然法則が成立するが，神や自由や不滅の魂といった事柄については，道徳法則に基づいて考えねばならない。

問 8　本文の趣旨から考えて，文章中の B に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 30

① 伝統や迷信，古い学説といったものに囚(とら)われることなく，あらゆる事柄について合理的精神をもって考察すること

② 科学の成果を尊重し，有効に利用しながらも，倫理的問題については従来の形而上学や宗教の見解に従って生きること

③ 現実についていたずらに悲観的な見方をするのではなく，つねに楽観的な態度で明るい未来社会の実現に向けて努力すること

④ 伝統の全面的拒絶や科学万能主義といった行き過ぎを避け，人生の意味や社会生活を支える理想について問いつづけていくこと

第5問　私たちの行為は，様々なものに影響を及ぼす。それらの中には，倫理的な観点から見て配慮すべき対象が存在するであろう。それをここでは「他者」と呼ぶことにする。

「他者」に関する次の文章**A**～**C**を読み，下の問い(**問1**～**6**)に答えよ。

(配点　20)

A　「他者」の中には，同じ家族や地域社会に属する人々が含まれる。ⓐ日本では高度経済成長期以降，家族や地域社会の形態や機能が著しく変化した。そのため，そうした集団の一員として，同じ集団に属する人々とどのように関(かか)わるべきかが，現代に生きる私たちにとって改めて切実な課題となるのである。このことの最も顕著な例の一つが，ⓑ高齢化の進展に伴う諸問題であろう。

問1　下線部ⓐに関して，高度経済成長期以降，家族の形態に現れた変化の一つに，核家族化がある。核家族化(あるいは核家族)を説明する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **31**

① 核家族とは，国家を構成する核となる基本的な家族という意味であり，一組の夫婦とその子どものみから成る。

② 日本の核家族化は1960年代から80年代にかけて進行したが，その後，核家族世帯数の比率は急激に減少した。

③ 日本の急激な核家族化には，産業構造の変化により若年層が職を求め都市部へ集中したことなどが背景にある。

④ 日本の核家族はそれ以前の家族が担っていた社会的機能をそのまま保持しており，そのため主婦の負担が重い。

問 2　下線部ⓑと関連の深い事柄についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 32

① 「NPO(非営利民間組織)」：営利を追求せず国家の枠にも縛られずに，高齢者福祉など様々な課題に取り組む組織のこと。日本にはNPOを支援する法律がなく，速やかな制定が求められている。

② 「ノーマライゼーション」：高齢者や障害をもつ人々も，そうでない人々も，共に通常の生活ができるようにしていくこと。その上での障壁となる要素を取り除くことが，バリアフリーと呼ばれる。

③ 「ホームヘルパー」：高齢者や障害をもつ人々が在宅で暮らしている場合，その自宅を訪れて介護のサービスを提供する人のこと。経験を活かしてもらうという意味で，高齢者が携わるのが基本である。

④ 「生涯学習」：あらかじめ複数用意された，全生涯にわたる長期的なプログラムの中から，自身の興味や関心に基づいて選択し，取り組む学習のこと。高齢化の進展に伴い，その重要性が指摘されている。

B　ⓒ自分とは異なる文化や国に属する人々もまた，「他者」と言えるであろう。その人々は，身近にいることもあれば，遠く隔たった場所にいることもある。いずれにせよ現代において，そうした人々との関わりは，既に思いのほか密接で，相互に与え合う影響も大きい。そうした人々の現実の姿を理解することは，現代社会においてⓓ正義を実現する上でも求められるのである。

問 3　下線部ⓒに関連して，異文化理解についての記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 33

① 古代ギリシア人たちが異民族を「バルバロイ」と呼んで蔑(さげす)んだように，人は往々にして，自民族や自文化の価値観を絶対のものとみなした上で他の民族や文化について判断を下そうとする，エスノセントリズムに陥りがちである。

② どの文化もそれぞれに固有の価値を備えており，互いの間に優劣の差をつけることはできない，とする文化相対主義は，人が文化の多様性を認め，寛容の精神に基づく異文化の理解へと歩を進める上で，一定の役割を果たしうる。

③ パレスチナ生まれの思想家サイードは，近代において西洋の文化が自らを東洋と区別し，東洋を非合理的で後進的とみなすことで西洋自身のアイデンティティを形成した過程を指摘し，その思考様式をオリエンタリズムと呼んだ。

④ 一つの国家や社会の中で異なる複数の文化が互いに関わり合うことなく共存できるよう，その障害となる諸要素を社会政策によって除去する必要がある，と考える多文化主義の立場は，それ以前の同化主義への反省から生まれた。

問 4　下線部ⓓに関連して，現代において正義に関する理論を提唱した人物に，ロールズとセンがいる。二人の正義論についての記述として最も適当なものを，次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ロールズについては 34 に，センについては 35 に答えよ。

① 各人に対し，自ら価値があると認めるような諸目的を追求する自由，すなわち潜在能力を等しく保障することが重要であると指摘した。

② 各人には過剰な利己心を抑制する共感の能力が備わっており，めいめいが自己の利益を追求しても社会全体の福祉は向上すると考えた。

③ 自由や富など，各人がそれぞれに望む生を実現するために必要な基本財を分配する正義の原理を，社会契約説の理論に基づき探究した。

④ 相互不信に満ちた自然状態から脱することを望む各人が，自らの自然権を互いに放棄し合う，という形で社会や国家の成立を説明した。

⑤ 侵すことのできない権利をもつ各人から構成されるものとして，国家は国民のそうした権利を保護する最小限の役割のみを担うとした。

⑥ 自然法を人間理性の法則として捉(とら)えて国家のあり方を論じるとともに，諸国家もまた同じく普遍的な国際法に従うべきであると説いた。

C　ⓔ脳死の状態にある人物，あるいは人の胎児や生殖細胞を私たちがどのように処遇するかは，十分に倫理的な問題であると思われる。またその場合，それらはここで言う「他者」であると考えるのがふさわしいかもしれない。ⓕ未来世代の人々や動植物，あるいは自然環境そのものをも「他者」とみなし，さらにそれらを尊重することを求める立場すら存在するのである。

問 5　下線部ⓔの脳死に関して，日本の臓器移植法で採用されている定義として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 36

① 脳死とは，心臓の拍動が停止するとともに，脳幹を含む全脳の機能が不可逆的に停止した状態のことである。

② 脳死とは，心臓の拍動が停止するとともに，脳幹を除く脳の機能が不可逆的に停止した状態のことである。

③ 脳死とは，脳幹を含む全脳の機能が不可逆的に停止した状態のことである。

④ 脳死とは，脳幹を除く脳の機能が不可逆的に停止した状態のことである。

問 6　下線部ⓕで述べられている立場に基づく主張として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 37

① 限りある資源の節約やリサイクルに努め，私たちの社会を循環型社会へと転換していくことは，この私たちが現在の生活レベルを享受しつづけるために必要である。

② 際限のない生産・開発や利潤追求を放置しておくと，生態系へ深刻な影響が及び，動植物の権利を侵害するおそれがあるので，何らかの対策を講じるのが望ましい。

③ 科学の研究や食用などのために毎日数多くの動物たちが命を奪われているが，そのことを悲しむ人々が少なからずいるのだから，何らかの制限を設けるべきである。

④ 酸性雨によって世界各地の歴史的建造物が被害を受けているが，そうした建造物を残してくれた先人たちの偉大さを思うならば，防止策の検討が早急に求められる。

問題と解答は、独立行政法人　大学入試センターホームページより転載しています。
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。

日本一の学校情報
JS日本の学校®
http://www.js88.com

インターネット塾・予備校情報サイト
JS日本の塾
http://jyuku.js88.com